

道東太平洋沖の流速場（2019年10月 海況速報No.190 付記）

2019/10/10

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。（水温観測結果は「北辰丸」および、函館水産試験場所属「金星丸」の結果を使用しています。）

親潮： 親潮の本流（O1：流速30cm/s程度（100m深））は根室沖合の一部でのみ捉えられていますが、それよりも西側では流れが不明瞭です。すなわち、親潮の大部分は根室沖まで到達していないと考えられます。そのため8月とは異なり、親潮水（100m深5℃以下）は道東沖合にほとんど分布していません（図2）。

暖水（えりも以東）： 42°N以南に平年よりもかなり高い暖水（100m深10℃以上）が分布しています（図2）。その暖水の外縁部には、大きく弧を描く強い時計回りの流れ（W1：流速60～100cm/s程度（100m深））が分布しており、これは観測海域の南側に分布する暖水塊の一部と考えられます。

津軽暖流： 津軽海峡から流出した暖水（100m深12℃以上）が、えりも岬付近まで大きく張り出しており、津軽暖流は渦モードとなっています。日高湾では、水温が平年よりも高めになっています（図2）。

今後の見通し： 10月は親潮の勢力が弱い時期である事に加え、今年是一年と通して親潮が弱かったため、現在道東太平洋では暖水が広い範囲に分布しています。親潮の勢力が強まるのは例年ですと12月以降のため、今後1～2ヶ月は水温が高めの状況が続くと考えられます。

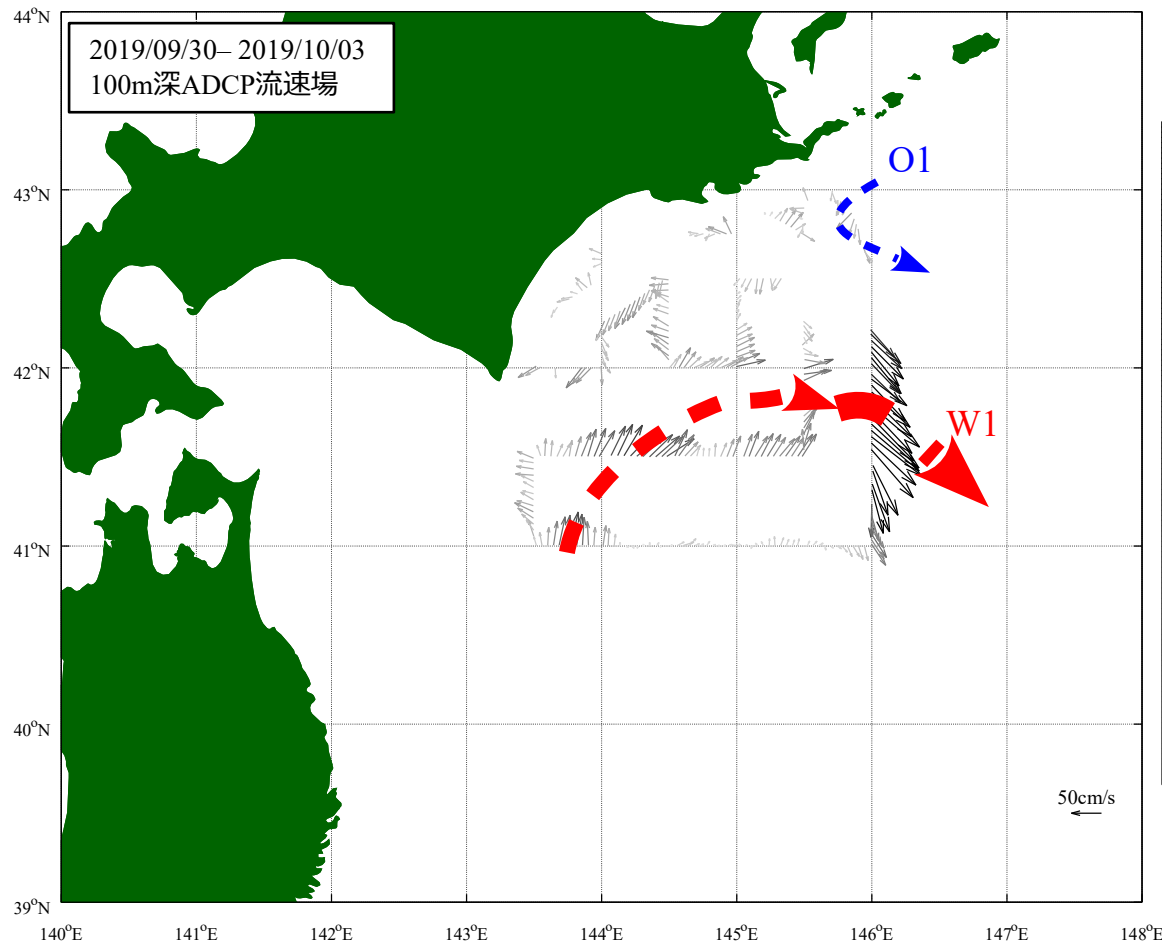


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さで色の濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮（青）と暖水（赤）の流れの模式図

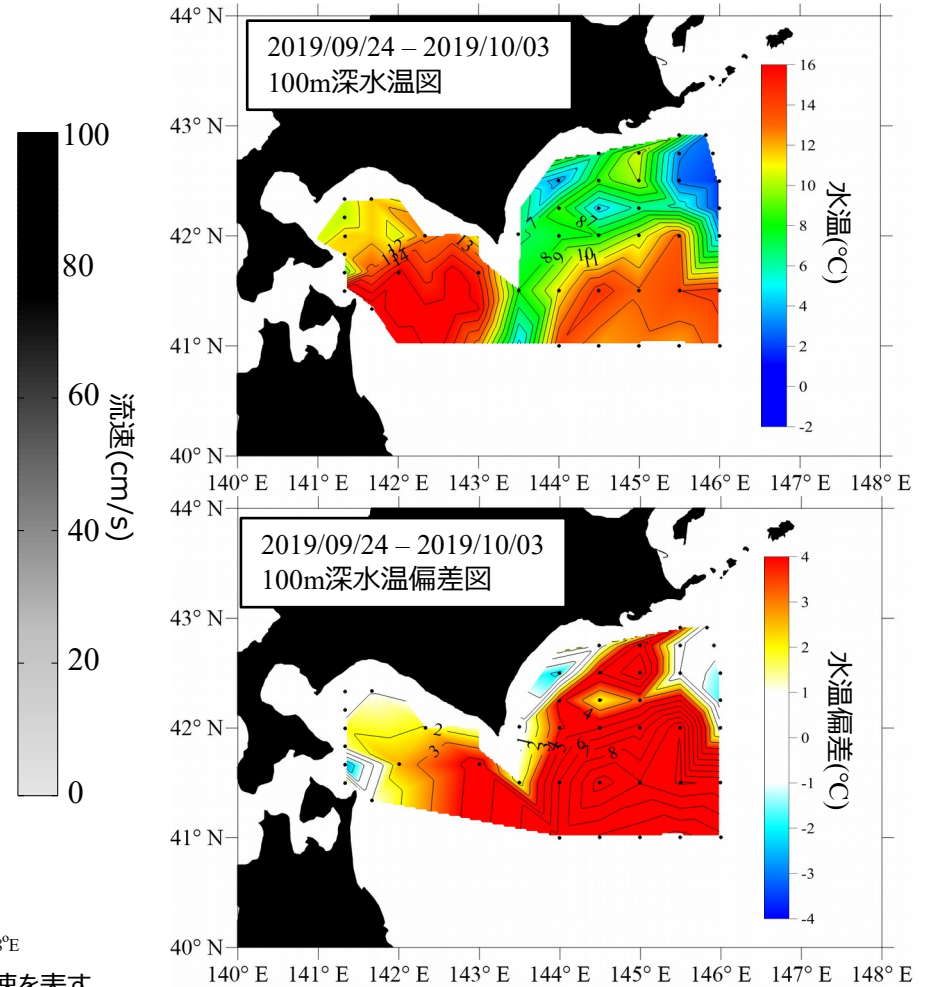


図2（上）100m深水温図
（下）100m深水温偏差図（1989～2018年平均からの差）